



令和4年度 弥栄小便り 第07号

1, [10月26日(水) 島根県へき地教育研究大会浜田大会] が終了しました。

弥栄小学校の会場には、浜田市内外から20名以上の方がいらっしゃいました。児童数の2倍近い参観者に囲まれ、3・4年生はかなり緊張していたようです。が、福田先生のリードで、授業に集中して参加することができました。研究協議の後、参観者から次のような感想を聞きました。「授業の様子から、普段のしっかりした学級経営の姿が見えてくるようだった。」「自律的に学習に臨む児童の姿が印象的だった。」「指導が必要な場面を的確に捉え、授業者がわたりを適切に行っていた。」「教材・教具および環境整備が行き届いていた。」これらの言葉は、ここまで頑張ってきた児童・担任の力によるものです。それはまた、研究や会場準備に当たった教職員全員の頑張りに支えられたものでもありました。今回の経験をひとつのステップとして、学習指導の更なる深化を目指して参ります。



2, [体操大会] や [マット運動の学習] に思うこと

去る10月19日(水)に、5・6年生が小体連体操大会に参加しました。また10月27日(木)には、3・4年生がマット運動の様子を島根県教育委員会の先生に見ていただきました。詳しい様子は学級だよりに譲りますが、「マット」「鉄棒」「跳び箱」などの器械体操・器械運動の特性について考えさせられました。器械体操(運動)はよく、「克服型のスポーツ」と呼ばれます。言葉にすれば「以前はできなかった技ができるようになった!」「技の完成度を高めることができた!」「技と技の間を滑らかにつなぐことができるようになった!」といったところでしょうか。「逆上がりができた」「O段が跳べた」などは、多くの方が経験してこられたことでしょうか。そうした「できた喜び」「昨日よりちょっと上手になった自分」を感じることでできる運動領域と言ってもよいかもしれません。体操大会や体育の授業に向かう児童の表情に、よく表れていました。こうした機会を得て、自信と体力をつけてほしいものです。



3, 弥栄産業祭りにて

11月3日(祝)、弥栄産業祭りに4~6年生が参加しました。車庫内の特設ステージ上で舞うのは初めてでしたので、「ぶつつけ本番」での参加でした。教職員は、児童が落下しないかハラハラしながら見ていたそうです。が、実に堂々とした舞・所作・囃子でした。練習と勝手が違うところも多々あったでしょうが、そうしたことへの対応練習にもなりました。適応力を高めつつ、学校の文化祭りに臨んでほしいと願います。

